

第5回「北海道こども木工作品コンクール」 優秀作品の紹介

成澤直人

はじめに

北海道立林産試験場と(社)北海道林産技術普及協会の共催による「北海道こども木工作品コンクール」は、木のグランドフェアの一環としてスタートし、今年で5回目を数えます。全道各地の小・中学校33校から、合計243点の応募があり、木の特徴をうまく活かし、創意工夫を凝らした優れた作品が集まりました。

コンクールは木工工作/レリーフ作品の2部門に分けられ、小学生・中学生のそれぞれの部門で優秀作品が決められます。

審査にあたっては、

木の持ち味や彫刻板の特長を活かし、自分で新しく考え、作りだした作品であること。

実生活に役立ったり、デザインが優れた作品であること。

工作技術が優秀な作品であること。

の3つを選定基準としました。

前回より設けられた北海道知事賞には、木工工作の部・個人では服部 竜二君の「犬」(写真1)、同・団体では置戸町立勝山小学校6年生の「動物のサーカス船」(写真2)、またレリーフ作品の部では高瀬 瞬君の「ふくろう」(写真3)が受賞しました。

木工工作部門

小学生個人の作品

小学生の作品には、木の様々な部材を独創的なアイデアとうまくマッチさせた力作が多く見られました。

見事に金賞に選ばれた阿寒町立布伏内小6年の服部 竜二君「犬」は、樹皮と木目をうまく使い、モチーフを表情豊かに表現しています。

銀賞となった阿寒町立布伏内小5年の土居 麻美さん「森の動物たち」(写真4)は、クマや小鳥などが登場する楽しい作品です。同じく旭川市立緑新小4年、亀谷 あかねさんの「サンバをおどる人」(写真5)も銀賞を受賞しています。

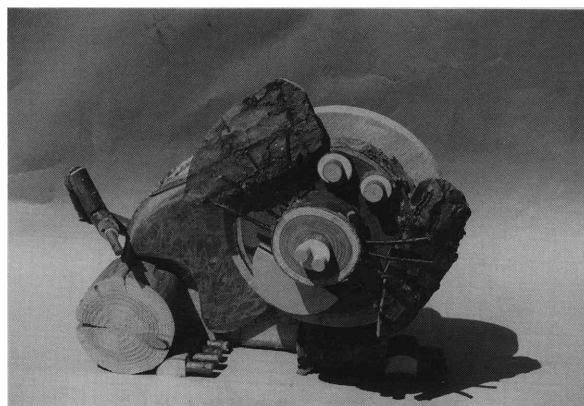


写真1 金賞「犬」



写真2 金賞「動物のサーカス船」



写真3 金賞「ふくろう」

銅賞には、ユーモラスなカメの姿が印象的な阿寒町立布伏内小2年の三沢 梢さん「親がめ子がめ」（写真6）、旭川市立江丹別小4年の中村 紘士君「ダチョウ」（写真7）、旭川市立緑新小4年の若杉 由香莉さん「フルーツバスケット」（写真8）が選ばれました。ほかにも皮付きの丸太や端材を上手に使って動物や

乗り物を表現した作品が集まりました。

小学生団体の作品

団体作品は、子供たちが共同でテーマを考え、完成させたオモチャ箱のような楽しい作品が出品されました。

金賞の置戸町立勝山小 6年の「動物のサーカス船」は、大きな船の上で様々な動物たちがサーカスを繰り広げるファンタジックな作品です。非常にていねいな作りで、船の中にまで動物が配置されています。

銀賞となった佐呂間町立仁倉小 6年の「大宇宙の神秘」（写真9）は、遠い星に住んでいる様々な姿・形の人々が、宇宙をイメージしたオブジェに配置された斬新な作品です。同じく、置戸町立勝山小 4・5年の「森の遊園地で動物達とあそぼう」（写真10）も微笑ま

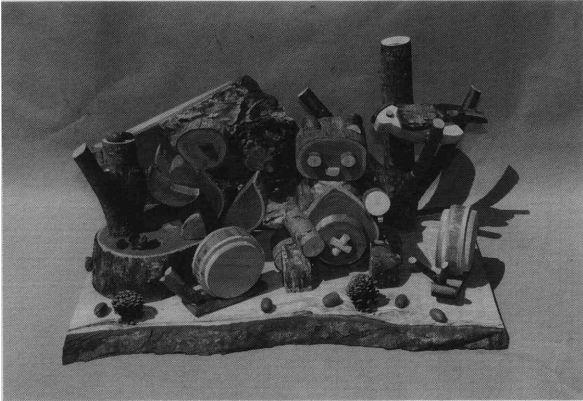


写真4 銀賞「森の動物たち」



写真5 銀賞「サンバをおどる人」

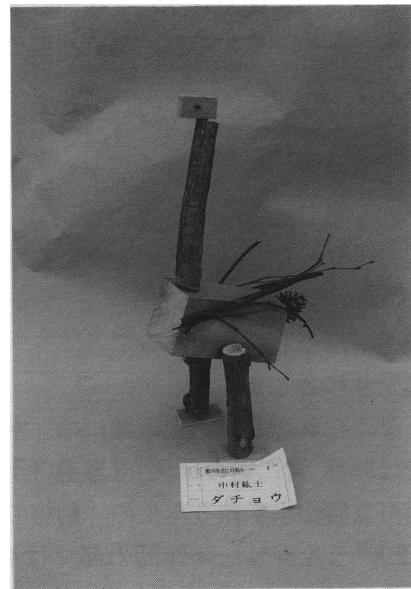


写真7 銅賞「ダチョウ」

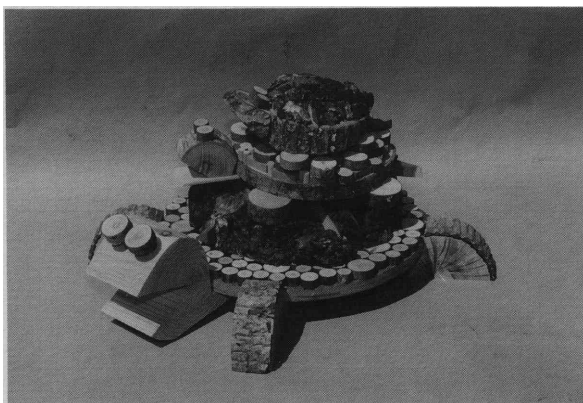


写真6 銅賞「親がめ子がめ」

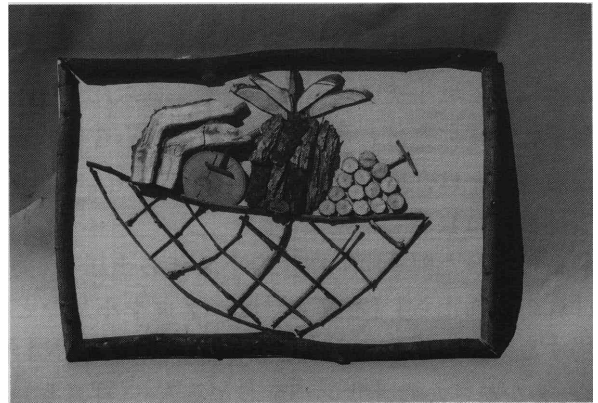


写真8 銅賞「フルーツバスケット」

しい作品です。

銅賞の該当作品はありませんでしたが、そのほかにも子供たちの制作風景が浮かんでくるような作品が多くありました。

中学生個人の作品

バリエーションが豊富で、優秀作品を選ぶのに一番苦労する部門です。木彫の小鳥や小箱などの工芸作品から、実用的な小家具まで幅広い出品内容でした。

金賞の阿寒町立布伏内中1年の土居 麻子さん「ワニ」(写真11)は、皮付きの丸太から切り出した材料

で作られた作品で、ワニのリアルな質感とデフォルメしたユーモラスな容姿をとっても上手に組み合わせた傑作です。

阿寒町立布伏内中3年の三沢 朋有君「森の神」(写真12)は、同中学校から“あじろ文様時計”として数点出品された中のひとつで、作者が楽しんで作っているのが伝わってくる点が評価され、銀賞として選ばれました。同じく、道教育大学附属函館中1年の荒井 雄次君「デトロイト・ボンバー」(写真13)も受賞しました。

銅賞には、道教育大学附属旭川中2年の増田 弘樹君「たな」(写真14)、札幌市立稲穂中3年の竹澤 裕志君「電話台」(写真15)、函館市立湯川中3年の梅本 佳奈さん「木彫小箱」(写真16)が入賞しました。どれも丁寧に仕上げられており、好感が持てる作品です。

そのほかにも照明やパズル、オルゴールなど様々な作品が出品されました。



写真9 銀賞「大宇宙の神秘」

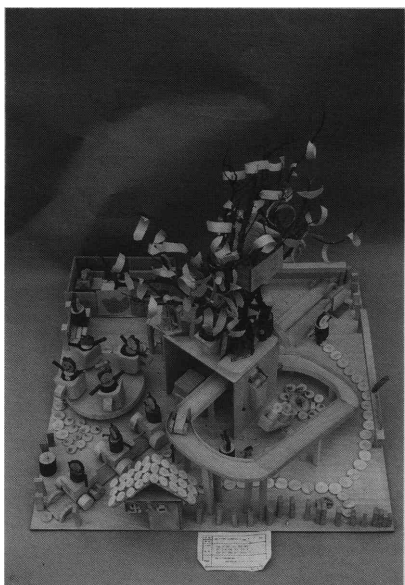


写真10 銀賞「森の遊園地で動物達とあそぼう」

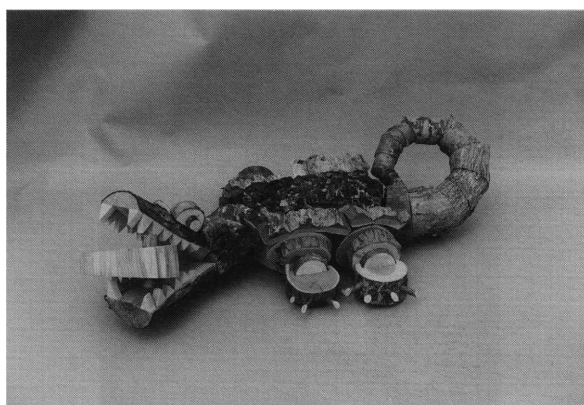


写真11 金賞「ワニ」

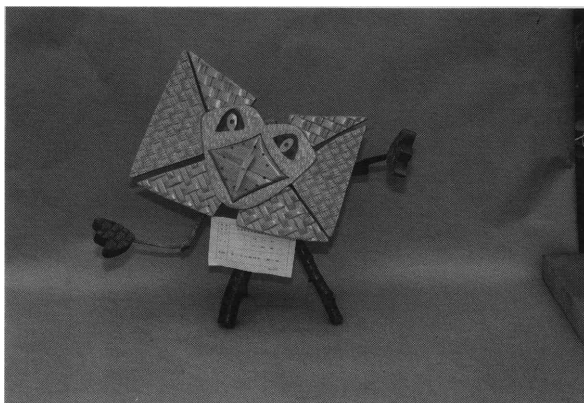


写真12 銀賞「森の神」

レリーフ(「アート彫刻板」)作品部門

この部門で用いているアート彫刻板は、C.G.P(接着層着色積層材)という新しい素材からつくったものです。C.G.Pは着色した接着剤で単板と単板を重ね合わせており、彫り込んだ際に美しい模様が生まれます。彫る角度、探さを変えたり、よく切れる彫刻刀を使うことで、様々な表現が可能です。

小学生の作品

美瑛町立美瑛東小6年の千葉 裕子さん「アゲハチョウ」(写真17)は、チョウが羽ばたく様子を彫り方を变化させ表現した点が評価され、金賞に選ばれました。

銀賞は、旭川市立江丹別小6年の永井 真奈さん「オオカミの狩り」(写真18)、旭川市立末広小5年の三好 里佳子さん「あげはちょう」(写真19)が受賞し

ています。銅賞の該当作品はありませんでした。

中学生の作品

金賞には、細やかなタッチでふくろうの羽毛や樹皮

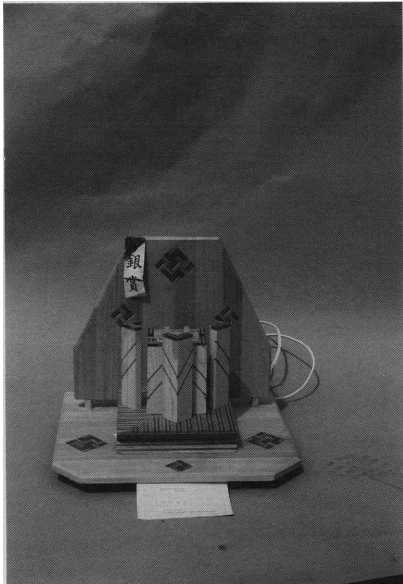


写真13 銀賞「デトロイト・ボンバー」

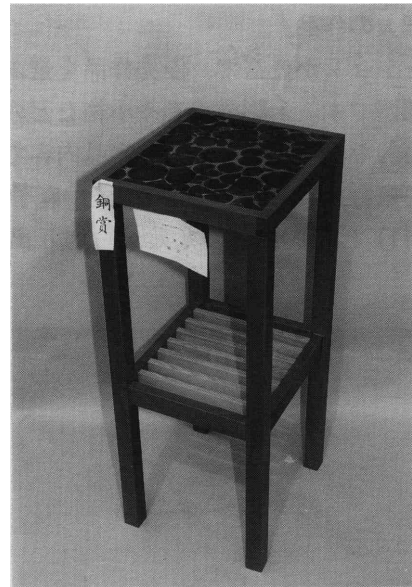


写真15 銅賞「電話台」

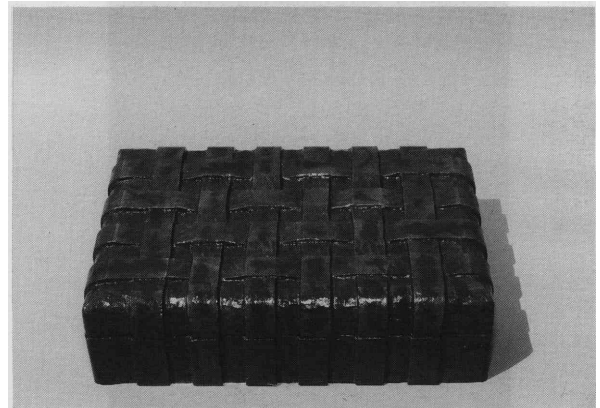


写真16 銅賞「木彫小箱」

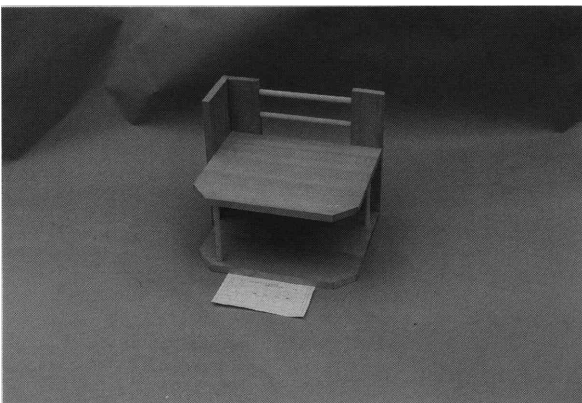


写真14 銅賞「たな」

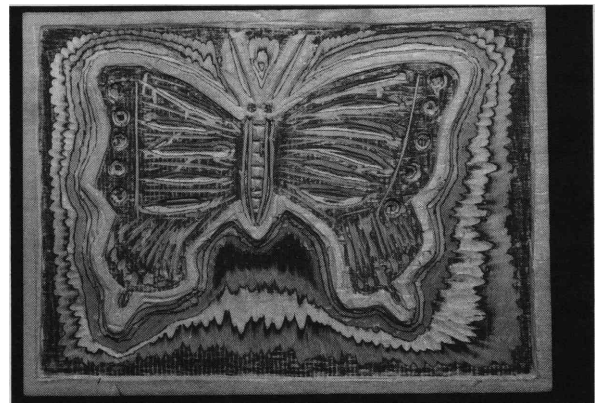


写真17 金賞「アゲハチョウ」

を表現した当麻町立当麻中2年の高瀬 瞬君「ふくろう」が選ばれました。

銀賞の旭川市立西神楽中3年の岡田 アキさん「ちょうちょう」(写真20)は、チョウの羽模様を立体感を出さず、逆に彫り込むことで非常に美しく仕上げられています。同じく銀賞の厚沢部町立鷲中2年の菊地 樹見



写真 18 銀賞「オオカミの狩り」

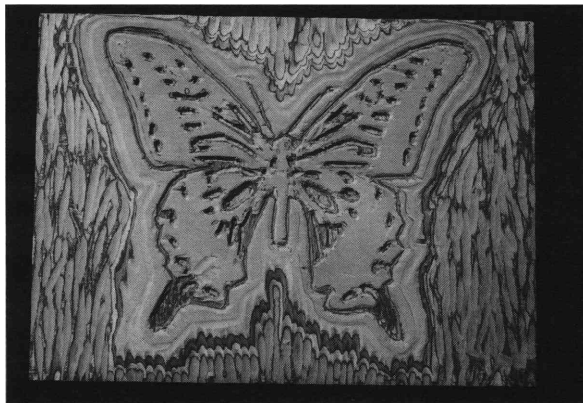


写真 19 銀賞「あけはちょう」

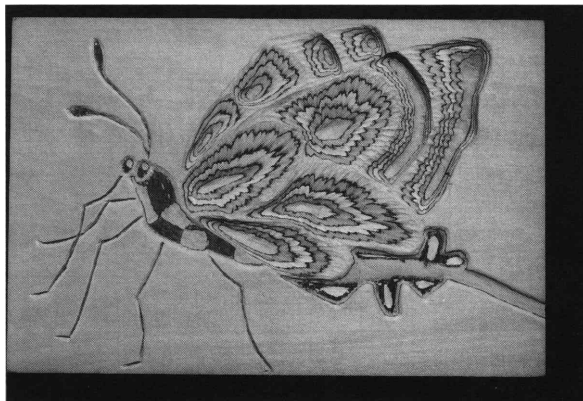


写真 20 銀賞「ちょうちょう」

子さん「くじゃく」(写真21)も、孔状に彫った孔雀の羽根模様がダイナミックに表現されています。

銅賞には、江別市立江別第三中3年の河瀬 幸恵さん「宇宙」(写真22),当麻町立当麻中1年の菅原 尊正君「森にはばたくコノハズク」(写真23),苫小牧市立弥生中2年の宮永 寛子さん「鹿」(写真24)が入賞しました。「森にはばたくコノハズク」は、アート彫刻板の接着層をきれいにし出して背景とした技術的に高度な作品です。

おわりに

最後に小・中学校における木材を使った学習について少しふれたいと思います。児童・生徒にとって、木工や木彫は意欲的に取り組める表現活動です。しかし、

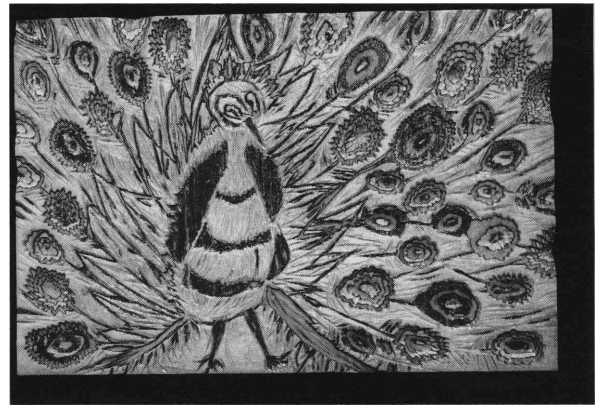


写真 21 銀賞「くじゃく」

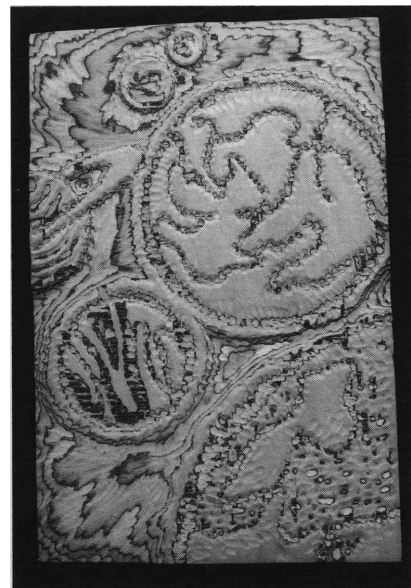


写真 22 銅賞「宇宙」

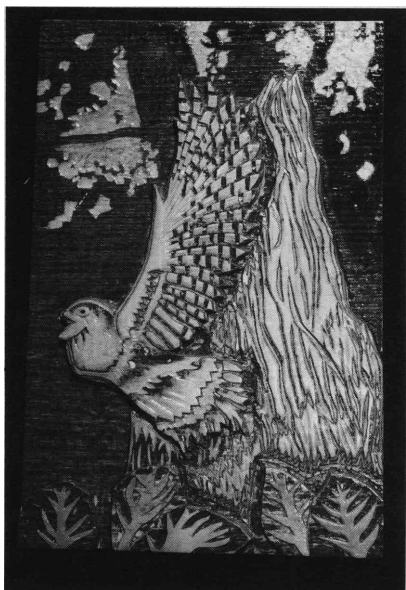


写真 23 銅賞「森にはばたくコノハズク」

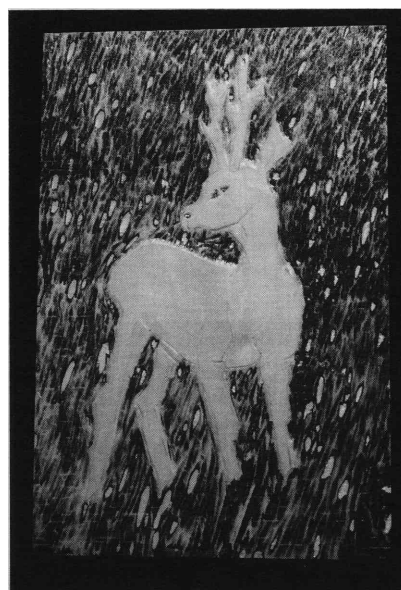


写真 24 銅賞「鹿」

学校の限られた「図工・美術（あるいは技術）」の授業時間の中で、納得のいくまで作品を仕上げていくことは難しい面があります。

このため、授業だけではなくクラブ活動や自由研究

などを通して、できるだけ時間に余裕を持たせた指導を各学校で検討していただきたいと思います。

（林産試験場 普及課）